

令和8年7月23日 全校集会（放送）

おはようございます。校長の坂元久美子です。

今日は2つお話をします。まず、聴いてください。

「自分事」の学びをしよう。

他人事でない、「自分事」の学びをしよう。

自分の気持ちが動かされ、夢中になってしまう経験をしよう。

やらされるのではなく、自分が求めることに挑戦しよう。

自分は自分。他人は他人。興味があることも違って当然。最初は関心がなかったことが、思いがけない「自分事」に変わる機会が横浜栄なら何度もある。「自分事」が増えると、世界が広がる。自分と同じように他者を尊重したくなる。時々難しいこともあるけれど、「自分事」は何よりも楽しい。

横浜栄の授業で、学校行事で、部活動で、何でもない放課後の時間で、たくさんの「自分事」に出会い、仲間とともに経験しよう。自分の意思で取り組み、心の熱量を高くして学ぶことは楽しいから。あなたも、ぜひ一緒に。

これは、4月に横浜栄に着任以降、皆さんにどんな3年間を送ってほしいか、どんな言葉で伝えようか、考えたものです。そして、中学生向けの学校案内、パンフレットにも載せることにした文章です。

未来は誰かがつくってくれるものでなく、自分が周りの人たちとつくっていくもの。やってもらうのを待つのではなく、自分がどうしたいのか、行動を起こす、試す、挑戦することで、今日・明日・未来がつくられます。そのための原動力が「自分事」。他人事ではない「自分事」です。皆さんの「自分事」がだんだん増えていくなれば、それは他者や社会に関心を持って生きることにつながります。

また、自分の「自分事」があるように、他の人にもその人の「自分事」があり、それらは同じように尊重されるべきものです。自分を大切にするように、他の人も大切に。「自分事」、自分の意思決定が大切な、簡単に譲れないものであるように、他者の「自分事」、他者の意思決定を尊重することです。

他者に合わせる、迎合して自分を失くすことは他者尊重ではありません。あくまでも自分は自分、他人は他人。同じ時代を共に生きる仲間として、同じ学校の一員として、どうしたらそれぞれ

の「自分事」が実現するのか。互いの思いを伝えあう、対話が解決策だと私は思います。理解しあえる接点を見つける努力をすることです。

与えられるものをそのまま受け取るだけでなく、「自分事」として向き合う経験を、これからもたくさんしてください。

そして、悩んで出口が見えなくなりそうなときは、先生方をはじめとして誰かに、ぜひ相談してください。

二つ目は、連絡です。

夏休み明けの2週間ほど、現在ドイツの学校に通っている女子が本校に来ます。日本の高校を体験することが目的です。すでに1年次の皆さんには、その受け入れの準備をお願いしています。

2・3年生と接する機会は多くはないかもしれませんが、彼女と皆さんが接することは、皆さんにとってプラスになる経験ができると私は思っています。ぜひ学校全体で Welcome の気持ちで迎えてあげてください。

では、体に気を付けて、夏休みを過ごしてください。

以上で、私の話を終わります。